

## 人と地域が輝く教育を目指す ～児童生徒一人一人に「生きる力」を～

市では毎年、学校教育の重点目標や、各学校と市教育委員会が取り組むべき事項を定めた「旭市学校教育指導の指針」を作成しています。今回はこの指針に定められた、八つの重点項目と主な事業を紹介します。

### 重点1「確かな学力」を育む

個々に対応したきめ細かな指導や、小中連携による学びの継続、積極的な言語活動や体験活動で、基礎や基本の習得と、自ら学び、考え、表現する力を育成します。

- 教諭補助員、学校図書館司書などの配置
- 家庭学習の奨励
- 各種教職員研修会の実施

### 重点2「思いやりのある豊かな心」を育む

人間関係づくりと道徳教育の一層の充実を図り、豊かな人間性や社会性、的確な判断力を育成します。

- 道徳研修会の充実
- 市スクールカウンセラーの配置
- 各種交流活動の推進、旭3Sとの連携

### 重点3「健やかな体」を育む

運動に親しむ能力の育成と体力の向上を図り、食に関する指導を充実します。

- 課外活動支援事業や部活動指導員の積極的な活用
- 栄養教諭による食育出前授業の実施
- 地産地消の推進と、安全安心な給食の提供

### 重点4「望ましい勤労観・職業観」を育む

働くことへの理解や関心、意欲を高め、社会人や職業人として必要な能力を育成します。

- 「職場体験活動」「ゆめ・仕事ぴったり体験」への支援

### 重点5「グローバル化に対応した教育」を進める

郷土愛を育て、日本人としてのアイデンティティーの確立と、英語教育の充実を推進します。

- 「あさひ輝いた人々」の活用
- 英検3級受験の検定料の補助
- ALT・JTEを小中学校へ派遣

### 重点6「地域とともに歩む学校づくり」を進める

学校公開や学校評価、情報の発信などを行い、開かれた学校づくりと教職員の働き方改革を推進します。

- 学校いきいきプラン事業の実施
- 特別非常勤講師の配置
- 人材リストの提供
- 働き方改革の推進

### 重点7「安全・安心な学校づくり」を進める

児童生徒の安全確保に配慮するとともに、家庭、地域、関係機関などと連携し、防災・防犯体制を改善します。

- 旭市通学路安全推進会議の実施
- スクールガードリーダーの派遣
- 子ども110番の家の依頼
- 防災教育の推進
- 放課後児童クラブの設置管理

### 重点8「一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育」を進める

児童生徒一人一人の障害の種類、特性などに応じた特別支援教育の充実と、校内支援体制を確立します。

- 専門家チーム会議や全校への巡回訪問活動の充実
- 関係機関との連携

## あさひ輝いた人々

第9回

### 武術・歌人など 多方面の活躍をした人

うなかみ たねひら  
海上胤平(1829～1916年)



海上胤平は武芸で免許皆伝の腕前があり、裁判所役人、日本一流の歌人など、さまざまな面でその才能を発揮しました。

文政12(1829)年、三川村犬林で生まれ、通称六郎、号は椎園といました。

17歳で江戸に出て、北辰一刀流などの剣道や槍術を学び、免許皆伝。26歳で千葉周作の推薦により、紀州藩(今の和歌山県)の剣術師範役になりました。

時代が変わり、明治時代になると武術では生活ができなくなったため、明治2(1869)年、水原県(今の新潟県の一部)の役人になりました。明治8(1875)年には山形県の地方裁判所判事補になり、役人としての才能を発揮

しました。

55歳で役人を辞め、東京(神田錦町)に住み、自分の好きだった歌の道に生活の中心を移し、歌人や歌道評論家となりました。歌人としても超一流であり「明治現存三十六歌撰」に選ばれています。門人や歌会も多く、代表的歌集として「椎園詠草」「椎園家集」を出版しました。

性格は頑固なところがあり、一度決めたことは押し通す人だったそうです。人の勧めにもかかわらず、御歌所(明治歌壇の中心勢力)にも入らず、自由に作歌や評論をしていました。

大正2(1913)年、三川に碑が建てられました。正面の文字は海軍大将東郷平八郎の書です。東郷は胤平の生き方に共鳴し、歌の指導を受けていました。

大正5(1916)年に亡くなりました。三川小には、胤平の地元を題材にした歌が額に飾られています。

これやこの  
三川の里の七曲  
なほき道には  
などかつくらぬ



海上胤平の碑